



第8回ふるさとあずま作品展を開催しました

令和8年2月8日(日)～2月13日(金)まで東地区の方から募集した絵画、工芸、書道、写真、文芸の各作品の展示会を東公民館ホールで開催しました。



8回目を迎えた作品展には、東地区在住・在勤等の46名(九歳から百歳)の皆さんから、これまでで最多となる107点の作品の
出展がありました。
東地区に関係するテーマ部門(伝統行事、史跡、風景等)及び自由部門についてそれぞれ作品が提出され、日本画、洋画、鉛筆画、写真、陶芸、書道、絵手紙、川柳、工芸など多彩な力作が出展されました。
観覧者からは、様々な趣味や才能を持って楽しまれている方たちが地域にいらっしやることを実感し感動した、昔の近所の風景が見られて興味深かった、どの作品も個性にあふれ、すばらしいものばかりだった、出品した皆さんの美しさを追求する努力に感銘を受けた、どのように作られたのか興味深い、素敵な作品が見られ毎年楽しみにしている、などの感想が寄せられました。

(東地区地域づくり協議会)

東地区の歴史と地名

箱田(はこだ) (その一)

前橋台地の利根川右岸に位置する。滝川が南流する。地名の由来は不詳ですが、条里制の水田の条里である坪が箱田を呈することによると考えられます。条理水田が村前遺跡・五反田遺跡で発見されており、さらに広がるものと思われれます。

「近世」箱田村 江戸期より明治二十年の村名。群馬郡のうち。はじめ総社藩領、のち高崎藩領。前橋藩領・旗本平井氏領の相給を経て、前橋藩領となる。「郡村誌」によれば慶長一九年村内を東箱田村・中箱田村・西箱田村に分け、明治五年再び合併して箱田村になったとあります。郷帳では「箱田村」として見え、「松平藩日記」などでは東箱田村・中箱田村・西箱田村に分けています。なお、「郡村誌」によれば、元禄一〇年前箱田村を分村しています。

村高は、「寛文郷帳」で五九三石余うち田方四六六石余・畑方二六石余、「元禄郷帳」も「天保郷帳」五二四石余、「旧高旧領」も同高。寺院は天正年間長井因幡の創建という天台宗常円寺、神社は菅原神社・飯玉神社があります。後世、木曾義仲の遺臣等が、木曾山中の神体を箱に入れて、東道を通った時、人々がその箱の中を尋ねたところ、「箱だ」、「ただの箱だ」と答えたところから、「箱田」の地名が生まれたという伝説が残っています。

「近代」大字箱田 明治二二年より昭和二九年の東村の大字名。明治七年の戸数七三、人口は三〇四、学校一・水車場一。
「近代」箱田町 昭和二九年より現在の前橋市の町名。昭和四四年一部が大利根町一〜二丁目となる。

小字名の変遷 前掲出の「古市町の地名」中の「小字名の変遷」を御参照下さい。
箱田村の字名(江戸期からの地名) ・県立文書館所蔵・明治六年の地籍図より
屋鋪(やしき)
中心集落で家のある地。明治九年の地租改正時に川東・川西に分割、改名して消滅。現地の範囲は、旧東公民館北部で、滝川の東西両岸にある中心的集落。

惣社道(そうじやみち)
惣社へ通ずる道の周辺の地。地租改正時に、古市との境にあるので、古市境と改名して消滅。現地の範囲は、滝川の西で新前橋駅・川曲線の両側付近。

谷津(やつ)
周辺より低い地。地租改正時に、高木へ併合されて消滅。現地は、わかば第一団地付近。

村東(むらひがし)
集落(屋鋪)の東方にある地。地租改正時に、五反田と改名して消滅。現地の範囲は、東小学校東の道の東で、JA前橋市の北付近。

西田(にしだ)
集落(屋鋪)の西方にある田地。現地の範囲は、わかば団地南の江田町からの学校道の南部。

薬師前(やくしまひ)
万日堂(薬師)の前の地。地租改正時に、滝川の西部の屋鋪と併合し、川西と改名して消滅。現地の範囲は、旧東公民館付近。

薬師後(やくしうしろ)
万日堂(薬師)の後の地。地租改正時に、滝川の西部の屋鋪と併合し、川西と改名して消滅。現地の範囲は、旧東公民館北の万日堂の後付近。

薬師西(やくしにし)
万日堂(薬師)の西の地。地租改正時に、滝川の西部の屋鋪と併合し、川西と改名して消滅。現地の範囲は、旧東公民館北の万日堂の西付近。

中袋(なかふくろ)
後家村へ袋状に入り込んだ地。地租改正時に、東中袋・西中袋に分割、改名して消滅。現地の範囲は、東小学校東の道の東で、大利根町一丁目の殿田堰の西付近。この範囲内に後家町の字中袋が含まれています。